

2010年3月期 第3四半期 決算概要

2010年1月27日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 山口 純史
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2010年3月期 第3四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

- フリー・キャッシュ・フローは黒字維持
- 半導体売上高は、SoCの不調をMCU増収でカバー
- 営業損益は前四半期比で大幅改善

II. 2010年3月期 業績見通し

- 第4四半期の業績は、生産増により売上・損益ともに改善の見込み
- 通期業績の見通し(09年12月24日発表、日本会計基準ベース)は据え置き

(注)当社は連結財務諸表作成に関する会計基準を「米国基準」から「日本基準」に変更しております。次頁以降は日本会計基準で作成しております。

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、2010年3月期第3四半期の業績でございますが、フリーキャッシュフローに関しては前四半期から引き続き収支黒字を維持いたしました。

半導体売上高においては、SoCが想定を若干下回る実績となったものの、マイコンの増収でカバーし、ほぼ想定通りとなりました。営業損益は前四半期と比べ、大幅改善となりました。

次に、2010年3月期の業績見通しでございますが、第4四半期の業績は、生産が増え、売上・損益ともに改善する見込みであります。通期の業績見通しに関しましては、据え置きとさせていただきます。

また今回の決算概要をご説明するにあたり、

当社は昨年12月24日に発表いたしましたとおり、会計基準を「米国基準」から「日本基準」に変更しております。

次頁以降の内容は、日本会計基準で作成しております。

I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

(単位:億円)	10/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売上高	1,179	△106	△12	3,392	△1,255
半導体売上高	1,131	△107	△12	3,258	△1,190
営業損益	△93	+67	+61	△462	△329
経常損益	△113	+75	+51	△491	△307
当期純損益	△143	+59	+38	△541	△330
(為替レート)					
1US\$=	90円	11円高	5円高	95円	9円高
1ユーロ=	133円	4円高	2円高	133円	21円高

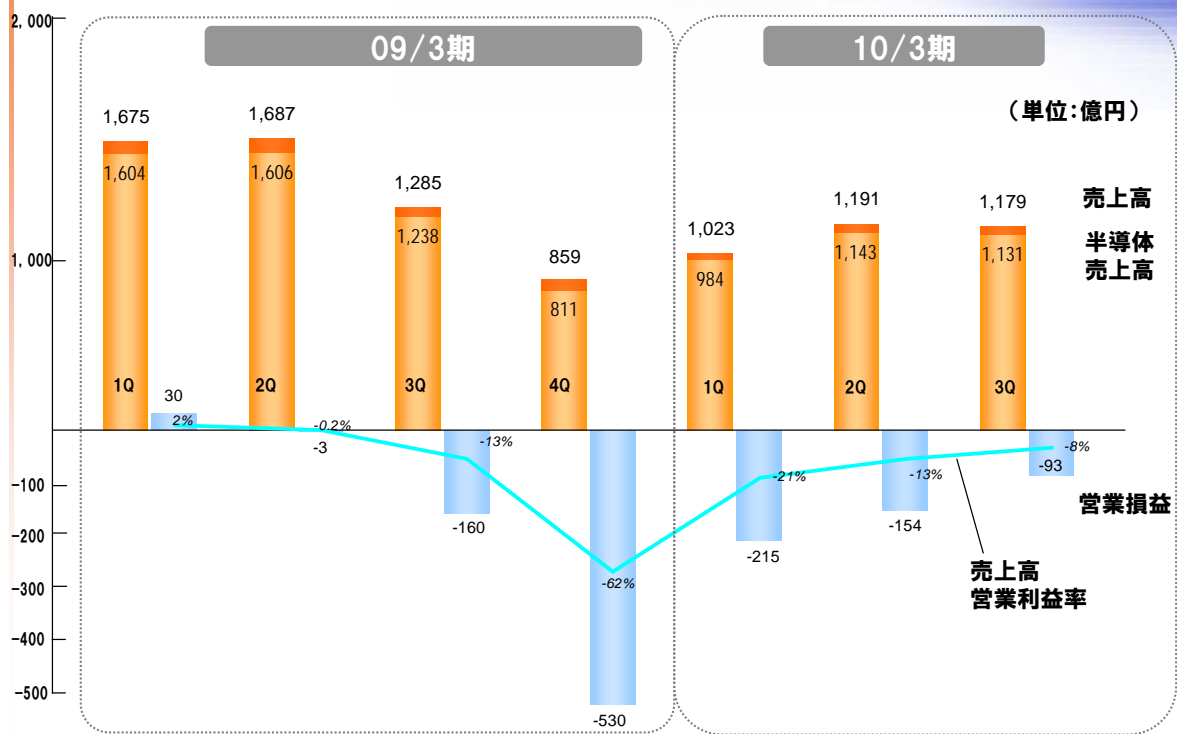
まず、第3四半期実績のサマリでございます。

半導体売上高は前四半期との比較で12億円減少の1,131億円となりました。

営業損益は前四半期と比べて61億円改善し、93億円の損失となりました。

経常損益は113億円の損失、当期純損益は143億円の損失となりました。

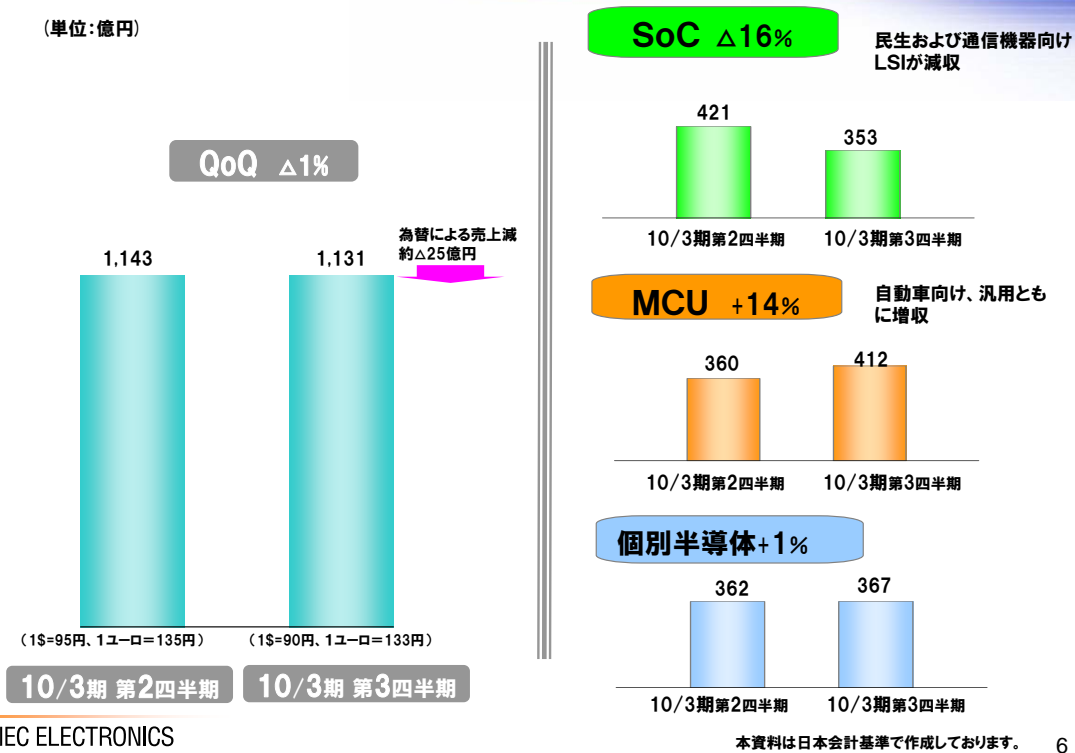
四半期別業績推移～日本会計基準



次に、四半期ごとの業績推移でございますが、第3四半期は、売上高は前四半期から若干の減収となりましたが、営業損益は大きく改善いたしました。

第3四半期(10-12月期) 半導体売上高(前四半期比) NEC

(単位:億円)



6ページは第3四半期の製品群別の半導体売上高についてお示しております。

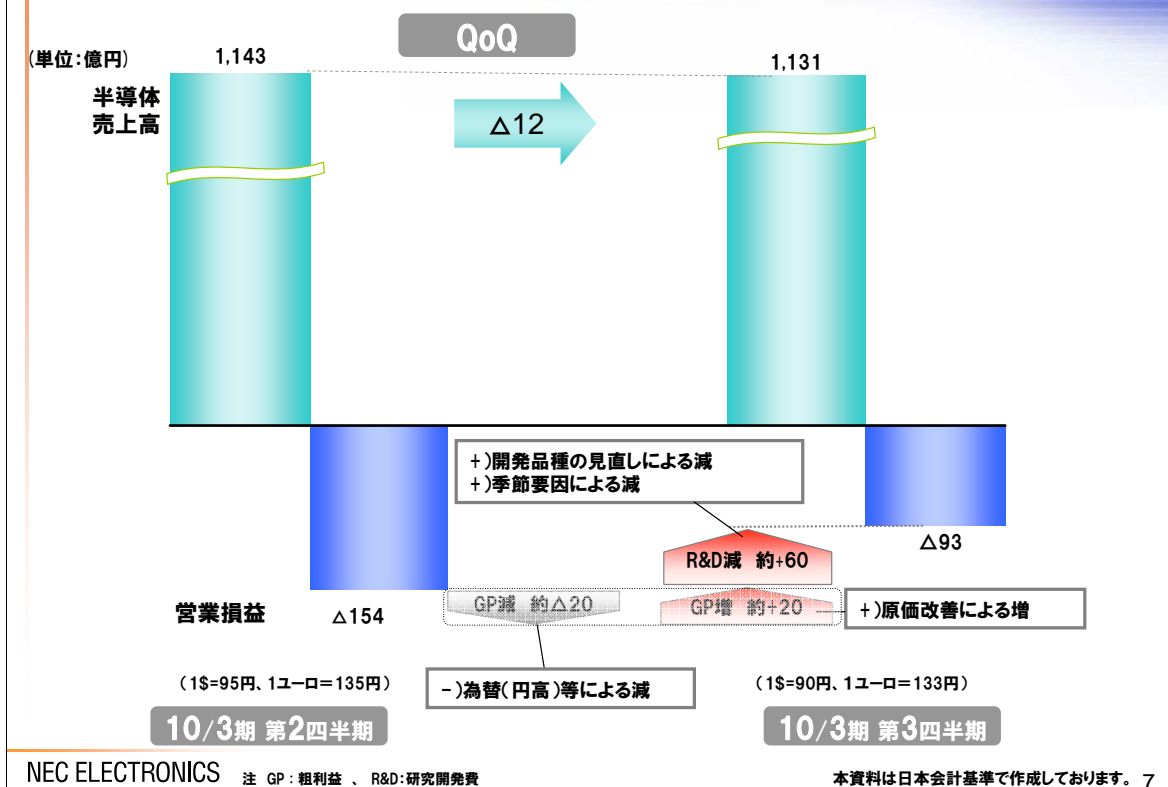
SoCにおいては、民生機器や通信機器向けのLSIが減収となり、前四半期から16%の減収となりました。

一方、MCUは自動車、汎用とも好調であり、前四半期比で14%の増収となりました。

個別半導体は前四半期比で横ばいに推移し、半導体売上高全体としては微減となりました。

第3四半期 営業損益の主な増減要因

NEC



7ページは、第3四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

この第3四半期は、円高の影響もあり、為替等による利益減があったものの、原価改善による利益増、開発品種の見直しを含む研究開発費の削減などにより、営業損益は61億円改善し、93億円の損失となりました。

バランスシート

NEC

(単位:億円)	09/3	09/9	09/12
現金及び現金同等物	1,013	895	956
受取手形及び売掛金	464	604	612
たな卸資産	632	545	571
有形固定資産	2,161	2,094	2,050
その他の資産	612	566	510
総資産	4,882	4,704	4,699
支払手形及び買掛金	612	683	781
有利子負債	1,113	1,398	1,418
その他の負債	1,210	1,108	1,120
負債	2,935	3,189	3,319
株主資本	2,024	1,625	1,483
評価・換算差額等	△122	△153	△142
新株予約権・少数株主持分	45	42	39
純資産	1,947	1,515	1,380
負債純資産合計	4,882	4,704	4,699
D/Eレシオ(グロス)	0.59倍	0.95倍	1.06倍
自己資本比率	39%	31%	29%

注 ①現金及び現金同等物:「現金及び預金」、「有価証券」 ②たな卸資産:「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」

③有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「新株予約権付社債」、「長期借入金」

④自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」 ⑤D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

本資料は日本会計基準で作成しております。

NEC ELECTRONICS

8ページは、バランスシートでございます。

生産増対応などにより、たな卸資産は571億円となり、9月末比で増加いたしました。

第4四半期にかけても、生産増を見込んでいることから、たな卸資産は増加する見通しです。

DEレシオは1.06倍、自己資本比率は29%となりました。

第3四半期のフリー・キャッシュ・フローも黒字維持

(単位：億円)	09/3期		10/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	102	285	110	131	△8
投資活動による キャッシュ・フロー	△72	△306	△73	△82	△329
フリー・ キャッシュ・フロー	30	△20	37	49	△336
財務活動による キャッシュ・フロー	△10	△29	74	11	281

次にキャッシュ・フローでございますが、
第3四半期においては、利益の改善などにより営業キャッシュ・フローが改善し、フリー・
キャッシュ・フローは前四半期に引き続き黒字となりました。

I. 2010年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2010年3月期 業績見通し

続きまして、2010年3月期の業績見通しおよび第4四半期の見通しについてご説明いたします。

10/3期 業績予想

NEC

通期の業績見通しは変更なし。(日本会計基準ベース)

(単位:億円)	09/3期	10/3期					
	通期	上期		下期		通期	
	実績	実績	米国会計基準との差異	今回予想	米国会計基準との差異	今回予想	米国会計基準との差異
売上高	5,507	2,213	+8	約2,410	+約10	4,620	+20
半導体売上高	5,259	2,127	+9	約2,330	+約10	4,470	+約10
営業損益	△664	△369	△5	△約105	△約5	△475	△10
経常損益	△762	△378	-	△約135	-	△515	-
当期純損益	△851	△398	△17	△約190	△約20	△590	△40
(為替レート)							
1US\$=	101円	97円	-	90円	-	90円	-
1Euro=	146円	132円	-	130円	-	130円	-

注:予想値は2009年12月24日現在

NEC ELECTRONICS

本資料は日本会計基準で作成しております。11

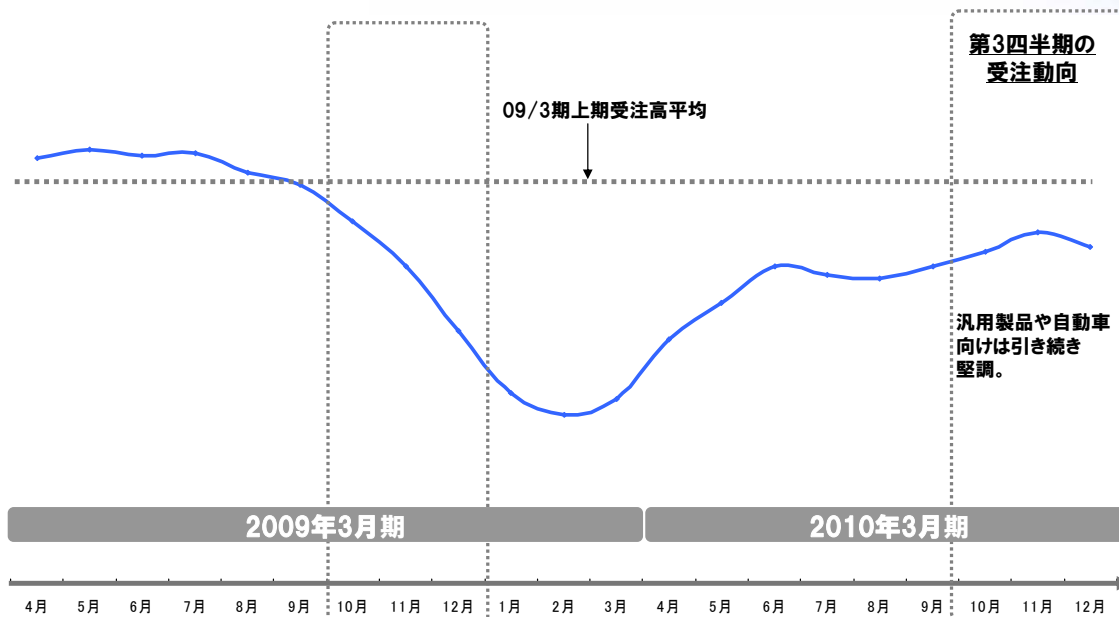
11ページは通期業績予想のサマリです。

当社は、昨年12月24日に、日本会計基準による通期の業績予想を発表いたしましたが、今回はその発表内容からの変更はございません。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS (為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用)

本資料は日本会計基準で作成しております。12

12ページは、当社の半導体受注高の推移を3カ月移動平均でお示したものです。

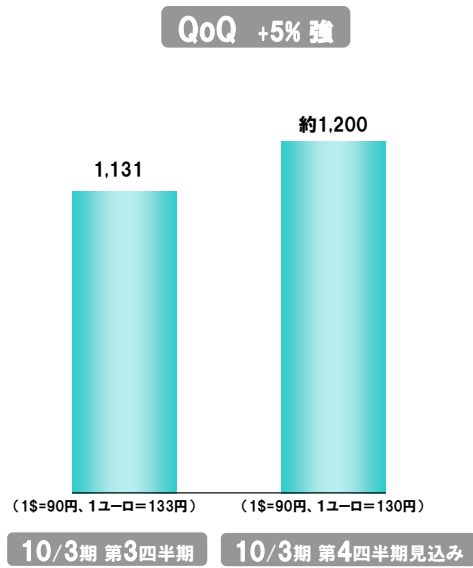
第3四半期の半導体受注高は、ディスクリートなどの汎用製品や自動車向け半導体を中心に伸びました。

1月の受注においても、マイコンを中心に堅調に推移しております。

第4四半期半導体売上高の見通し

NEC

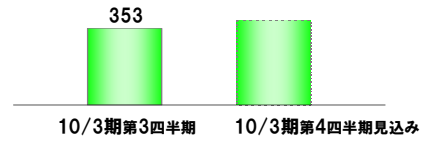
(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

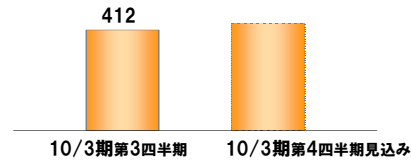
SoC +5%強

デジタルAV機器を中心に回復



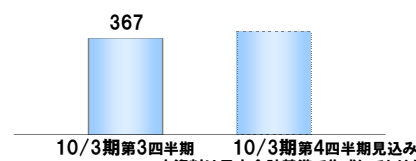
MCU +5%強

自動車向け、汎用ともに堅調



個別半導体 +5%強

全般的に堅調



本資料は日本会計基準で作成しております。13

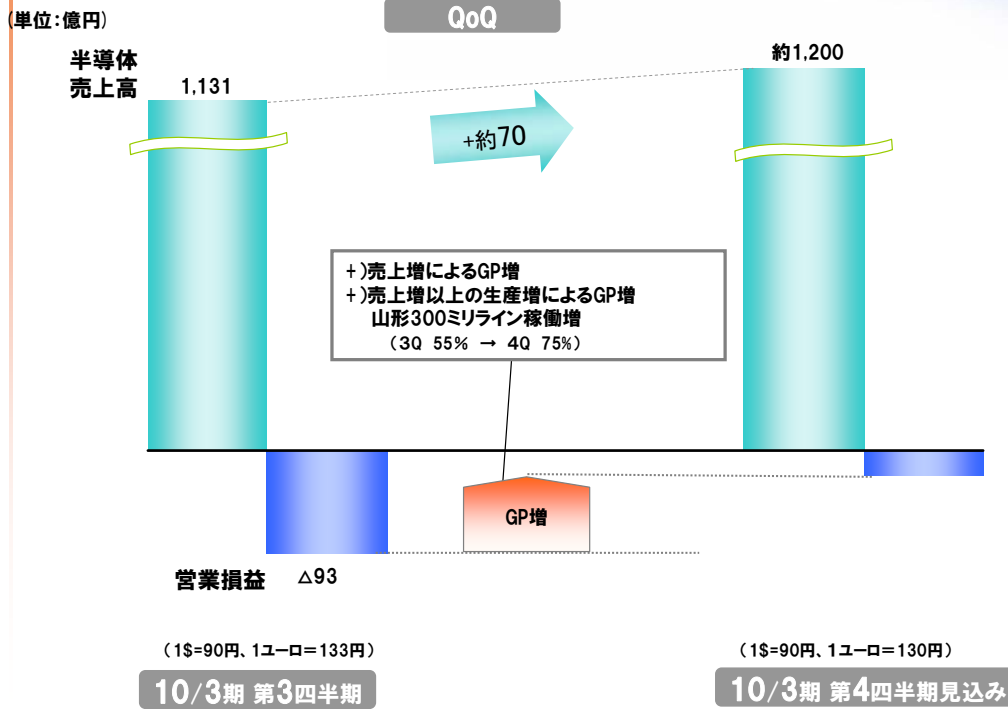
13ページは、第4四半期の製品群別の半導体売上高見通しについてお示ししております。

SoCにおいては、40ナノや55ナノなどの先端プロセス製品を中心に、デジタルAV向けなど民生機器で増収を見込んでおります。

MCUにおいては、自動車、汎用ともに増収、個別半導体においても全般的に堅調に推移する見込みであり、第4四半期の半導体売上高は5パーセント以上の増収を見込んでおります。

営業損益見通しの主な増減要因

NEC



NEC ELECTRONICS

注 GP: 粗利益、R&D: 研究開発費

本資料は日本会計基準で作成しております。14

14ページは、第4四半期の営業損益見通しを第3四半期と比較したものです。

第4四半期においては、売上拡大による利益増に加え、山形300ミリラインの稼働が改善することなどから、売上以上の生産増による利益改善を見込んでおります。

第4四半期の取り組み

NEC

■ 増産による売上拡大と収益改善

- 受注好調なマイコン製品の生産強化による売上拡大
- 40/55nm製品の量産拡大など、300ミリラインの稼働増による収益改善

■ 下期フリー・キャッシュ・フロー黒字を維持

- 需要が強いマイコンの前工程増強、および海外拠点を中心に後工程の能力増強を行なうが、生産効率改善や設備の転用等のミニマム投資で収支黒字は維持

■ 固定費削減の遂行

- 引き続き年間固定費削減900億円を必達

■ 構造改革の推進

- 生産統合計画を着実に遂行

NEC ELECTRONICS

本資料は日本会計基準で作成しております。15

次に第4四半期の取り組みをご説明いたします。

まず、第4四半期においては、受注が好調なマイコンの生産を強化し、確実に売上拡大につなげてまいります。

また、40ナノや55ナノ製品の量産拡大により、山形300ミリラインの工場稼働を引き上げ、収益の改善を図ります。

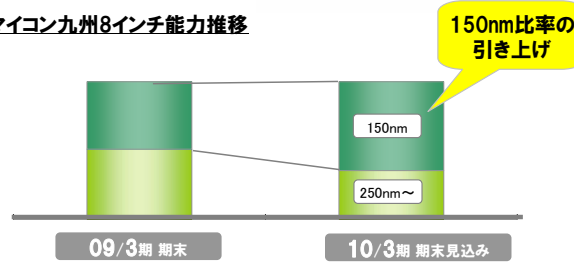
売上拡大に向け、マイコンの前工程能力の増強や、海外拠点を中心に後工程能力の増強を行なう一方、生産効率改善や設備の転用などを行い、投資キャッシュフローを低い水準で抑えることにより、下期は収支黒字を維持いたします。

固定費削減においては、年間900億円削減に向けて着実に各施策を実行するとともに、構造改革の推進においても生産ラインの統合計画を遂行してまいります。

以下、その内容についてご説明いたします。

生産能力の増強による売上拡大

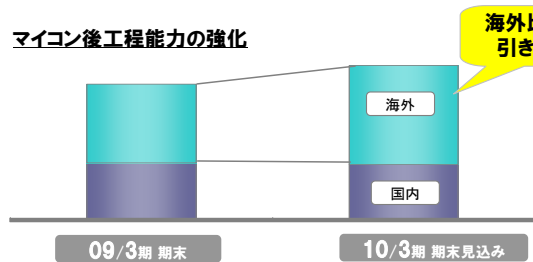
マイコン九州8インチ能力推移



九州8インチラインの微細化

- 生産性改善や旧山形8インチ設備の転用等、少ない投資で微細化
- 主にマイコンを生産する150nm比率を引き上げ

マイコン後工程能力の強化



後工程ラインの能力増強

- 海外拠点を中心に能力増強

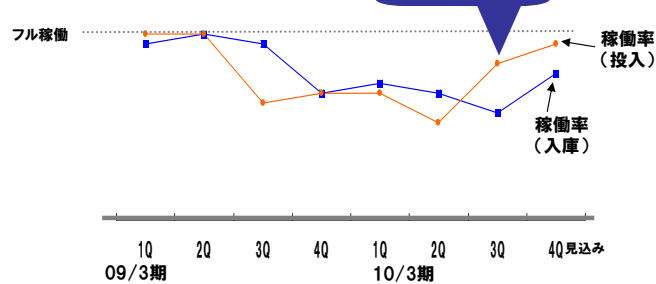
16ページは、売上拡大に向けた生産能力の増強についてお示しております。

まず、九州8インチラインですが、生産性の改善や閉鎖した山形8インチラインの設備を活用することにより、少ない投資で微細化を推進し、需要の強いマイコンを生産する150ナノプロセス比率を引き上げます。

また、後工程においては、海外拠点を中心に能力増強を行い、よりコスト競争力の高い生産体制を整えてまいります。

300ミリラインの工場稼働率の改善と微細化の推進

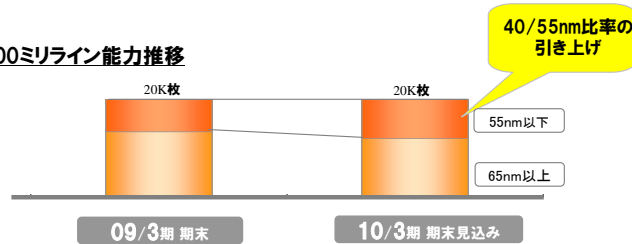
山形300ミリライン稼働率推移



山形300ミリラインの稼働改善

- 40/55nm製品の生産により、稼働率は改善基調
- 投入ベースでフル稼働の見込み
- 55nm以下のプロセス比率を引き上げ

山形300ミリライン能力推移



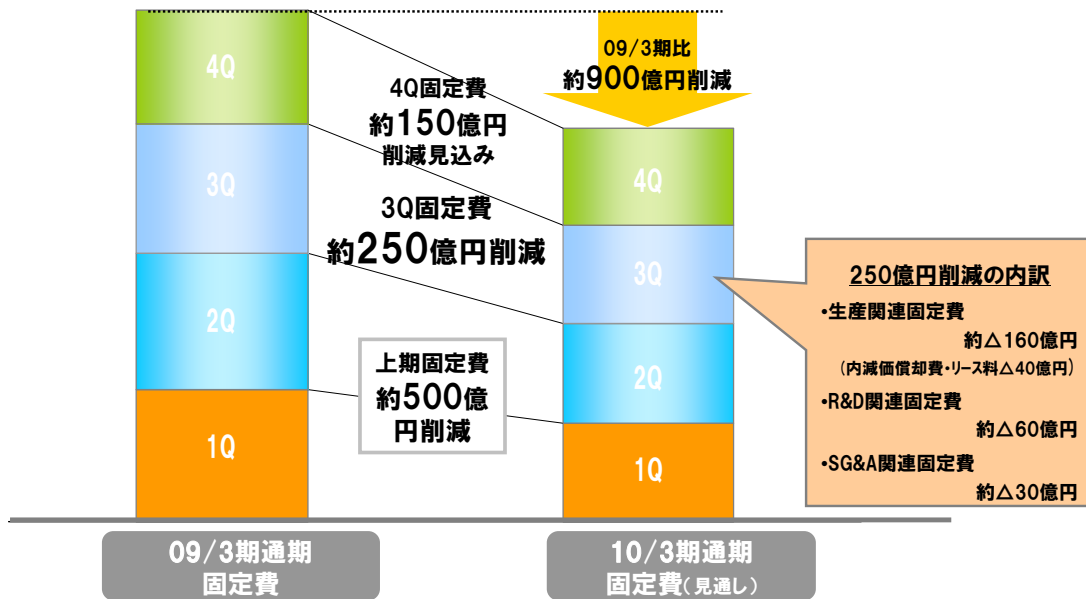
17ページは、300ミリラインの工場稼働率の改善と微細化についてお示しております。

先端プロセス製品の量産拡大により、第4四半期の山形300ミリラインの稼働率は、投入ベースではほぼフル稼働となる見込みです。

また、40ナノ製品の立ち上げにより、55ナノ以下の先端プロセス比率を引き上げ、微細化を進めてまいります。

900億円固定費削減の進捗

3Qで前年同期比約250億円の固定費削減



NEC ELECTRONICS

注 R&D: 研究開発費、SG&A: 研究開発費を除く販売費および一般管理費

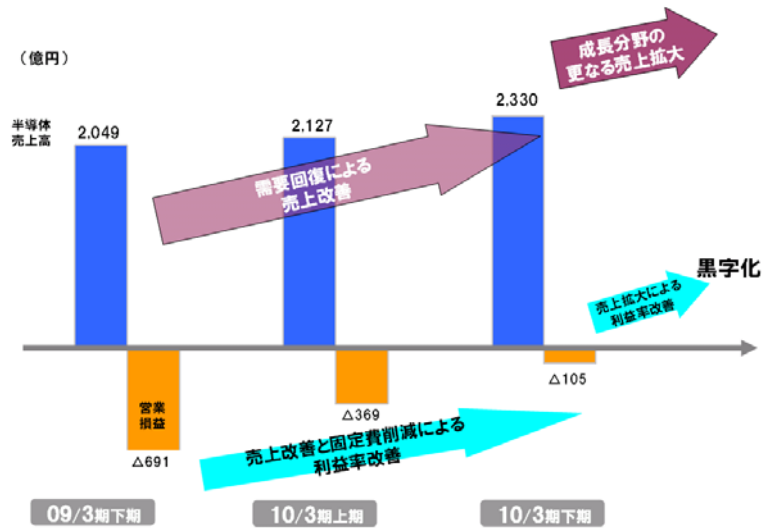
本資料は日本会計基準で作成しております。18

次に、固定費削減の進捗をご説明いたします。

第3四半期においては、計画通り、前年同期比で約250億円削減いたしました。第4四半期においても約150億円の固定費削減を実行し、今年度の目標である年間900億円削減を達成する所存です。

まとめ

- 通期の業績目標達成に向けて、生産強化による売上高の拡大と、固定費削減による損益改善を進める



最後に本日のまとめでございます。

グラフにお示ししているとおり、当社の業績は着実に改善しております。

通期の業績目標達成に向けて、生産強化による更なる売上拡大と、固定費削減による収益改善を進めてまいります。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

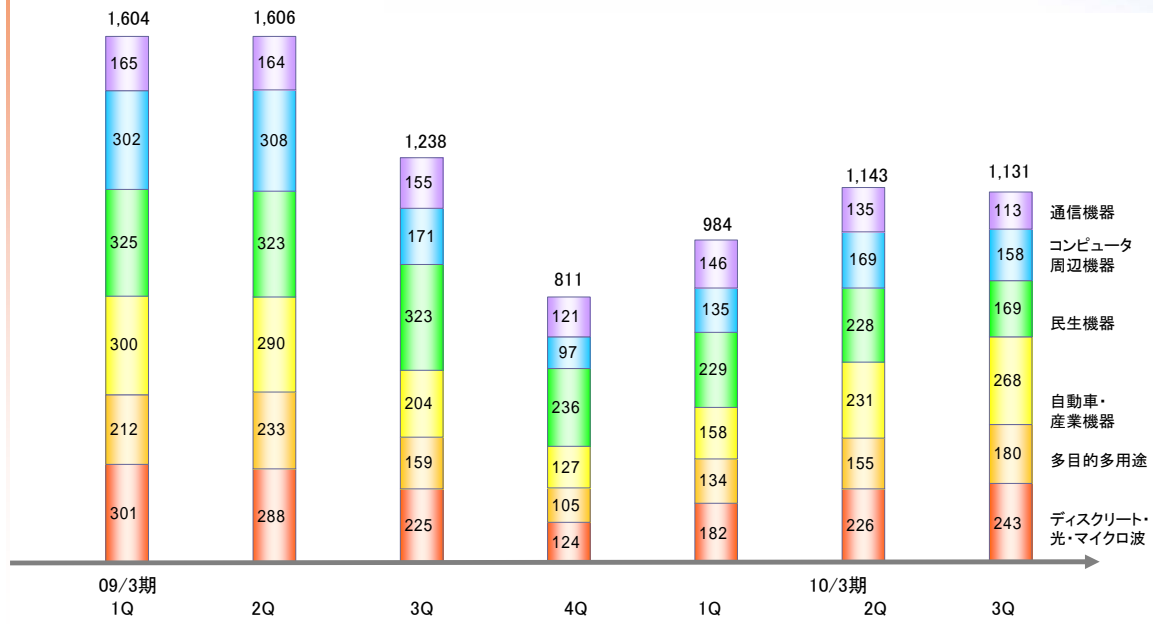
本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

**2010年3月期第3四半期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。**

参考：分野別 半導体売上高

NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

本資料は日本会計基準で作成しております。21

主な営業費用と設備投資の推移

